

## 大牟田市の文化芸術に関する市民意識調査から見てきた主な特徴と今後の方向性について

### ■主な特徴

#### 1. 文化芸術の鑑賞について

##### (1) 市民は新型コロナウイルス感染症などの影響により直接鑑賞する機会が少なくなった

市民意識調査では、この1年間にホール、劇場、映画館や美術館などで、文化芸術活動を直接鑑賞した市民は、47.8%と半数を割る結果となりました。また、本市が毎年度実施しています「まちづくり市民アンケート」においても、この1年間にホール、劇場、映画館や美術館などで、文化芸術活動を直接鑑賞した市民は、R3～R4年度調査においても50%を下回る結果となり(R3:44.5%、R4:38.2%)、特に、R4年度調査(R3年度に直接鑑賞を行った市民の割合)は、4割に満たない結果となりました。

一方、R2年度以前については、半数以上の市民が直接鑑賞している結果となっていることや、直接鑑賞しなかった要因として新型コロナウイルス感染症による影響により鑑賞の機会がなくなったことが最も多かったことから、文化芸術活動を直接鑑賞する市民が大きく制限を受けたことが推察されます。

##### (2) 市民は興味を持てるアーティストや作品に触れる機会を求めている

市民意識調査では、文化芸術鑑賞に関心を持つようになると思う項目として、「興味を持てるアーティストや作品に出会う」が最も高い値となりました。

以上のことから、市民ニーズの把握はもとより、文化芸術に関する情報などを的確に把握し、市民が興味を示すような文化芸術を提供することが重要であることが推察されます。

#### 2. 文化芸術の参加について

##### (1) 市民は新型コロナウイルス感染症などの影響により文化芸術活動を行う機会が少なくなった

市民意識調査では、この1年間に鑑賞ではなく、自ら文化芸術活動の実践(創作や出演、習い事、祭りや体験活動への参加など)をした市民は、4割を下回る結果となり、文化芸術活動を行っている市民の割合が低い状況であることが判明しました。

低くなった要因としてはさまざまなことが想定されますが、新型コロナウイルス感染症の影響で鑑賞する機会が少なかったことが判明したことから、実践する側も機会が少なかったこと、さらには子どもにおいても学校以外の芸術活動の実践が少なかったことから、全世代に亘って文化芸術活動の機会が制限されたことが推察されます。

## **(2)市民は魅力ある内容の活動への参加を求めている**

市民意識調査では、文化芸術活動に参加しやすくなると思う項目として、「魅力ある内容の活動が行われる」が最も高い値となりました。

以上のことから、市民ニーズの把握はもとより、文化芸術に関する情報などを的確に把握し、市民が興味を示し参加へと繋がるような文化芸術活動を提供することが重要であることが推察されます。

## **3.文化芸術に関する情報について**

### **(1)文化芸術に関する情報が十分に届いていない(発信されなかった)**

市民意識調査では、文化芸術に関する情報について、約3割程度の市民が情報を得ていると感じている結果となり、前回調査(41.5%)を大きく下回りました。一方、情報を得られていないと感じている市民は、51.7%と前回調査(34.3%)よりも15ポイント以上上昇する結果となりました。また無回答の割合が24.2%から2.5%と大きく減少する結果となりました。

文化芸術に関する情報が十分に届いていないと感じている理由については、アンケートでは調査していないため明確な根拠は断定できませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術活動が実施されなかったことなどにより、情報そのものが発信されなかったことも影響しているものと推察されます。

また、前回調査より無回答が大きく減少したことについても、文化芸術に関する情報が発信されていなかったことによって、情報を得ていないという明確な回答ができたため減少したということも推察されます。

### **(2)文化芸術に関する情報は、市の広報誌からの情報を入手する市民は多いものの、紙媒体以外からの情報を得ている市民が増加傾向となっている**

市民意識調査では、文化芸術に関する情報について、市の広報誌からの情報を得ている市民が多いことが改めて判明しました。

一方、前回調査との比較では、市の広報誌を選択している市民の割合は多いものの、インターネット、口コミ、テレビ・ラジオ、SNS、ホームページのいわゆる紙媒体以外の方法により情報を得ている市民が増加傾向となったことが判明しました。また、年齢階層別では、各年齢層で最も情報を得ている方法が異なる傾向となっていることから(SNSは29歳以下、インターネットは49歳以下、広報誌は40歳以上など)、文化芸術に関する情報は、アナログとデジタル双方の組み合わせにより、かつターゲットとなる年齢階層に併せた情報を発信することが効果的であることが推察されます。

## 4. 公共施設等の利用について

### (1) 市民は文化芸術活動の頻度などに応じた公共施設等の利用を行っている

市民意識調査では、文化芸術活動に利用した公共施設の利用頻度として、文化会館などの文化施設や地区公民館などの社会教育施設を中心に利用されていることが判明しました。

また、利用頻度別に見ると年に1回程度の利用が最も多いものの、週に1回程度においては、地区公民館が高齢者を中心に比較的多く利用されるなど、文化芸術活動の頻度に応じた公共施設等の利用が行われていることが判明しました。

### (2) 文化施設での音楽公演を求めている市民が多い。関心がない、活動を行っていない市民については、求めているイベントが特定されていない。

市民意識調査では、音楽公演(オペラ・オーケストラ・合唱・吹奏楽・ロック・ポップスなど)を求める市民が多い結果となりました。

一方、全ての年代で音楽公演を求める市民が最も多いものの、年齢階層別に見てみると、30歳代や70歳以上の市民については、他の年齢階層と比較した際には多くなく、「わからない」と回答した市民が比較的多い結果となりました。

30歳代については、「この1年間に直接鑑賞しなかった理由」について、「関心がないから」が最も多く、文化芸術活動そのものも他の年齢階層と比較した場合には、行っていない割合が高い結果となりました。

以上のことから、関心がない、活動を行っていない市民については、求めているイベントについては特定されていないということが推察されます。

## 5. 本市の今後の文化振興について

### (1) 市民は気軽に親しむことができる身近で質の高い文化芸術の提供を求めている。

また、30歳代については、子どもや若者の文化芸術への関心を高めることを求めている。

市民意識調査では、市民が気軽に文化芸術に親しむことができる身近な催しを充実させることや、コンサートや舞台、美術などで質の高い文化芸術の鑑賞の機会を充実させることを求める市民が多い結果となりました。

一方、年齢階層別に見てみると、30歳代については、子どもや若者の文化芸術への関心を高める事業の充実を求める市民が多い結果となりました。

以上のことから、子どもや若者の文化芸術への関心を高める事業を充実させることによって、関心力や活動力を高めることが期待できるものと推察されます。

## (2)市民は鑑賞型の文化芸術イベントを強く求めている。

市民意識調査では、市民が今後、望む文化芸術のイベントについては、鑑賞型の文化芸術のイベントが多い結果となりました。

一方、年齢階層別に見てみると、40歳代以下を中心にオンライン(インターネット)を活用したイベントを求めているなどイベントの形態も多様化していることも推察されます。

## (3)子どもの文化芸術活動が充実していると思う市民は少ない。

市民意識調査では、子どもの文化芸術活動が充実していると思う市民は、10.9%で前回調査の結果(17.7%)よりも低い結果となりました。

一方、思わない市民は、35.0%で前回調査の結果(27.6%)よりも高い結果となりました。また、「わからない」と回答した市民は50.3%と半数を超えるとともに、前回調査の結果(39.1%)よりも高い結果となりました。

「わからない」と回答した市民が増加した要因の明確な根拠は分かりませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により子どもの文化芸術活動が実施されなかったことなどにより、情報そのものが発信されなかったことも影響しているものと推察されます。

## (4)市民は子どもが文化芸術に親しむために、学校での鑑賞の機会や体験活動などの文化芸術活動を強く望んでいる。

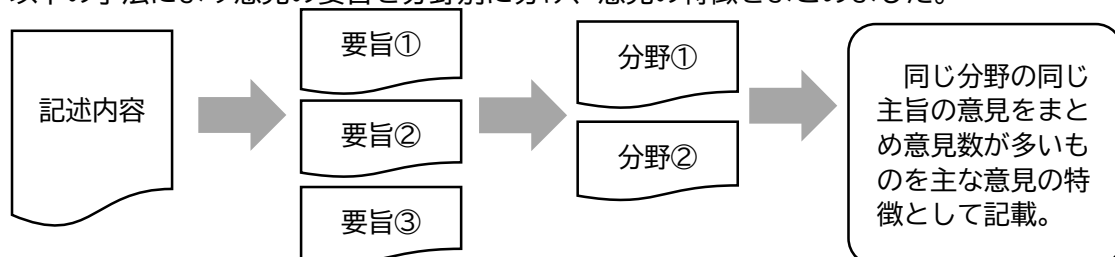
市民意識調査では、子どもが文化芸術に親しむためには、学校での音楽や演劇、美術などの鑑賞の機会や、文化会館などでの体験、親子体験などを望んでいる市民が多いことが判明し、特に20歳代、40歳～50歳代につきましては、学校での鑑賞の機会や体験活動を強く望む結果となりました。

また、子どもの文化芸術体験について、何が重要かの質問においても学校における公演や展示、鑑賞体験、さらには音楽やダンスなどの実演体験などが重要であると回答した市民も多かったことから、市民は学校での文化芸術活動を強く望んでいることが推察されます。

## 6. 文化芸術活動の盛んなまちにするためのアイデアなど[自由記述欄]

### ●自由記述欄の内容から導き出した意見集約の手法について

以下の手法により意見の要旨を分野別に分け、意見の特徴をまとめました。



記述内容から意見の要旨を個々に抜き出し、要旨を分野ごとに振り分け主な意見としてまとめることとしました。

### **(1)市民は文化芸術に触れる(参加する・鑑賞する・体験する)機会を望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術活動への参加や体験、文化芸術作品等の鑑賞など、文化芸術に触れる機会を望む意見が多く寄せられました。中でも子ども世代が文化芸術に触れることが重要である旨の意見が多くあるとともに、学校教育中での文化芸術に触れる機会を設けることを望む意見が多くありました。さらに、子どもの文化芸術体験については、親子参加型の体験を希望する市民が多いことも判明しました。

以上のことから、市民は文化芸術に触れる機会を望んでいるとともに、子ども世代から文化芸術に触れる機会を設けることが重要であることを感じている市民が多いことが推察されます。

### **(2)市民は文化芸術に触れるための環境や条件の整備などを望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術に触れるための気軽に鑑賞や体験ができる機会や地区公民館などの身近な施設での機会の創出、駐車場の整備や子どもが文化芸術に触れることができるためのスペースの確保などを望む意見が多く寄せられました。また、文化芸術に触れるための助成制度(無料や割引制度)などを望む意見も多く寄せられました。さらには、コンサートも聴覚障害を持つ方々にも鑑賞ができるような聴覚支援システムの導入など、文化芸術に触れるための合理的配慮を求める意見も寄せられました。

以上のことから、市民は気軽に文化芸術に触れる機会を得るための環境や条件の整備、社会的包摂に向けた対応などを望んでいることが推察されます。

### **(3)市民は文化芸術に関する分かりやすい情報発信を望んでいる。**

市民意識調査の自由記述欄では、文化芸術や文化会館などに関する情報について、十分に届いていないと感じている意見が多く寄せられました。また、情報発信の手法の工夫(ポスターやチラシ、ホームページの改善や充実、メディアの活用など)を望む意見も多く寄せられました。

文化芸術に関する情報については、市や文化施設、各種団体等においてもさまざまな手法を用いて情報発信しているところですが、その情報が十分に届いていないとともに、分かりやすい情報発信などの工夫が必要であることが推察されます。

### **(4)さまざまな分野の文化芸術に対するイベントやアイデアの提案が寄せられ、文化芸術のイベントに対する高い関心や要望がある。**

今回の市民意識調査アンケートでは、自由記述欄を通じて音楽・美術・演劇等のさまざまな分野のイベントやアイデアの提案が多く寄せられました(約60件)。

以上のことから、市民意識調査に回答した市民は、文化芸術のイベントやアイデアに対して高い関心や要望があることが推察されます。

## ■今後の方向性

市民意識調査アンケートにおいて見えてきたものを踏まえ、文化芸術の施策を進める上で、以下の方向性を導き出すこととしました。

### 1. さまざまな機会をとらえた文化芸術に触れる機会の創出

新型コロナウイルス感染症などの影響で文化芸術に触れる機会が減少したことなどから、今後はこれまで以上に、さまざまな機会をとらえた文化芸術に触れる機会を創出する必要があります。特に以下の機会を創出することが重要です。

#### (1) 体験できる文化芸術

- ①子どもを中心とした文化芸術の体験の充実
- ②学校教育の中での文化芸術の体験の充実
- ③親子の触れ合いなどを通じた文化芸術の体験(保護者も文化芸術に触れる機会) など

#### (2) 魅力ある文化芸術

- ①市民が興味を持つ文化芸術に触れる機会の充実
- ②多様なニーズに応じた文化芸術に触れる機会の充実
- ③優れた(質の高い)文化芸術に触れる機会の創出 など

### 2. 気軽に文化芸術に触れることができるための環境や条件の整備

誰もが気軽に文化芸術に触れることができるための環境や条件の整備が必要です。特に以下の環境や条件を整備することが重要です。

#### (1) 身近な場所で文化芸術に触れることができる機会の創出

- ①地区公民館などの身近な公共施設などを活用した文化芸術の創出
- ②身近な民間施設などを活用した文化芸術の創出
- ③文化芸術活動を行う団体等が身近な場所で気軽に文化芸術が発表できるための整備や支援
- ④オンラインの活用などの間接鑑賞も含めた文化芸術に触れるための整備や支援 など

#### (2) 文化芸術に触れるためのさまざまな配慮

- ①社会的弱者なども気軽に文化芸術に触れることができるための配慮や支援
- ②移動困難な市民が文化芸術に触れることができるための機会の創出
- ③安心して文化芸術に触れることができるための配慮や支援 など

### **3. 趣向を凝らした文化芸術情報の発信**

新型コロナウイルス感染症などの影響で文化芸術に関する取組みが行われていなかったこと、さらには、市民意識調査アンケートにおいて、文化芸術に関する情報が十分に届いていないことが判明したことなどから、以下の方向性による文化芸術情報の発信を行うことが重要です。

#### **(1) 触れてみたいと思う文化芸術情報の発信**

実際に体験や鑑賞を行った市民の感想を情報発信するなど、触れてみたいと思うような文化芸術情報の発信の工夫が必要(例:事前情報+事後情報 による発信)。 など

#### **(2) ターゲットとしている年齢階層に応じた情報発信ツールの選択**

文化芸術のターゲットとしている年齢階層に応じた情報発信ツール(広報誌・ホームページ・SNS・チラシ・ポスターなど)を選択した効果的な発信が必要。 など

#### **(3) 文化芸術活動を行っている団体等の情報発信の支援**

文化芸術に関する情報のほとんどは、文化芸術活動を行っている団体等の取組みであることから、団体等の情報発信を積極的に支援していくことが必要。 など